第 15 章　情報公開・説明責任

（財政公開）

目標

本学院の財政状況について、教職員、学生・生徒、保護者および社会に対する公開と、わかり易い説明の責任を果たす

現状説明

本学院では、従来から学院独自の「学事報告書」を作成し、法人の役員状況、教職員状況、学生･生徒状況、主要な施設・設備状況、主要行事状況を掲載している。さらに財務状況に関しては、資金・消費収支両計算書とその内訳表、人件費内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表および基本金明細表の一連の計算書を記載し、財産目録、事業報告書、監事および監査法人の監査報告書とともに各校の事務室に具備し、一定の合理的利害関係者にはその閲覧に供することとしてきている。ただし､「アカウンタビリティを履行するシステムの導入状況」の項に記述したように、これまで愛知県私学振興室を通じての閲覧要望は若干の件数が有り、その要望には応えたが、これらは何らかの機関からの要望と推測され、一般的な利害関係者から直接学校への閲覧要望は無かった。

前述のほか、本学院では 2003 年度以来、従来の学院広報誌を全面的に刷新して、新たに冊子「with Dignity」として刊行することとし、原則、毎年 6 月と 12 月に発行してきているが、2005 年度から、決算確定後となる 6 月号に「数字からみる金城学院」として収支の概要、資産の概要および資金の動きの概要を記載・説明するとともに、グラフなどを用いて解説している。その配布は教職員、退職教職員、学生生徒等・保護者と同窓会の役員等に対して行っている。その上で、それをまたホームページ上にも掲載し、公開に努めている。

点検・評価

前述のように一定の公開策を実行しているが、一般的な利害関係者からの公開要望あるいは問い合わせが殆ど無かったことは、周知が行き届いているかとも思われる一方、周知の不徹底とも考えられる。現在時勢的にアカウンタビリティとしての正確かつ透明な情報公開は、学院の信頼性の確保のためにも極めて重要であるから、社会的説明責任の観点からは、現状の周知・公開策は必ずしも十分ではないとの認識に立ち、より有効かつ適切な公開を図らねばならない。

改善方策

先の第 12 章中の（財務監査）にも記したように、学院ホームページから財政状況情報への到達を容易にすることと、広報室担当と同窓会との連携強化などにより、同窓生はじめ一般への情報公開の拡大を図る。また現状の説明は専ら学校法人会計基準に基づいた表現によっているため、一般の学外者にとっては、説明表現がなじみにくい点がある。この

点に関しては監事からの指摘・要望もあり、現在一般的な損益計算書スタイルへの組み換えなども内部資料的には試行しているが、今後の公開・説明にあたって、一般的によりわかり易い解説表現などの工夫を加え、改善を行う。

（自己点検・評価）

目標

金城学院大学自己点検・評価報告書（WINDOWS）の作成と学内外への配布

現状説明

本学の自己点検・評価は金城学院大学自己評価委員会規程（1994 年制定）に基づき、自己評価委員会の下で毎年行われてきた。各年度の自己点検・評価はまとめられた上で、4 年に 1 度、『WINDOWS』（金城学院大学自己点検・評価報告書）として刊行された（1998 年、2002 年発行）。

2003 年度、自己評価委員会規程の大幅な改定を行い、7 年ごとの認証評価機関による相互評価に対応しつつ、『WINDOWS』を 7 年間に 2 度発刊することとした。本学ではこの規程にしたがい、7 年に 1 度相互評価を受けること、その中間年度において大学独自の包括的な自己点検・評価を行うこと、毎年、各部署の活動目標、活動報告を実施すること、という具体的な点検・評価スケジュールを作成した。

自己点検・評価結果の学内外への発信はこの改定に従って行われている。2003 年度に受けた大学基準協会の相互評価結果は、『WINDOWS』vol.3 として 2004 年 7 月に刊行し、学内教職員ならびに学外関係機関へ配布した。今後、7 年ごとの認証評価機関による相互評価ならびにその中間年度の大学独自の包括的な自己点検・評価結果は同様の形で対応していく。

それに対して、毎年実施される各部署の活動目標、活動報告は毎年 6 月に開催される自己評価委員会に提出され、委員会で全学的視点からの審議が行われた後、学内教職員に配布されている。

点検･評価及び改善方策

現在に至るまで、本学では自己点検・評価ならびに外部評価結果の学内外への発信において、たえず見直しを行いながら、適切に実施してきた。今後もさらなる見直しと内容の吟味を重ねることによって､自己点検･評価､外部評価が適切に伝わるよう､努力していく。